

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
分担研究報告書

「AYA支援チームのモデル作成に関する研究」

研究分担者 河合 由紀 滋賀医科大学医学部 助教

研究要旨：AYA世代がん患者の支援チームのモデル作成に関し、地域医療におけるローカルネットワークモデルとして、前年度の県内の小児・AYA世代がん患者に関連する研修会でのアンケート調査をもとに、すでに公開し運用されているがん・生殖医療に関する県内共通資材と同様のAYA世代のがん患者支援に関する共通資材の作成を行い、運用の課題について検討した。院内で活動するAYA支援チームのモデル作成については、今後チーム医療として定常化するための取り組みと課題について検証した。これらの課題への対応が、医療と医療以外の分野との協働による的確な情報提供とローカルネットワークの構築や、自院内のチーム医療に止まらず地域医療としてのAYA世代がん診療支援へつながることが期待される。

A. 研究目的

地域医療におけるAYA世代がん診療体制の現状と課題を把握し、AYA支援ローカルネットワークおよび支援チームのシステム構築過程と課題について、モデル試行を通して検証する。

B. 研究方法

【研究1】地域医療におけるAYA世代がん支援ローカルネットワークに関する研究

2018年度は、滋賀県、滋賀がん・生殖医療ネットワーク（OF-Net Shiga）、がん診療連携協議会（診療支援部会・相談支援部会）によるがん・生殖医療に関する県内共通資材の作成とがん診療に関連する県内13施設での統一研修会、および、2019年度は、滋賀県、OF-Net Shiga、若年がんを考える会との共催による小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する県内共通資材案の提案と多職種合同の研修会を開催した。AYA世代がん患者の広域支援体制に関する調査研究として、これらの研修会終了後に参加の医療者を対象としたアンケート結果から、AYA世代がん患

者支援についての県内共通資材の作成を行った。作成において、パブリックコメントも実施した。

【研究2】自院内AYA支援チームのモデル作成
AYA支援チームのモデル作成として、滋賀医大病院内でAYA支援のチーム医療を目的に多診療分野、職種によるAYA世代がんの具体例を症例検討して支援を試行し課題を抽出した。

C. 研究結果

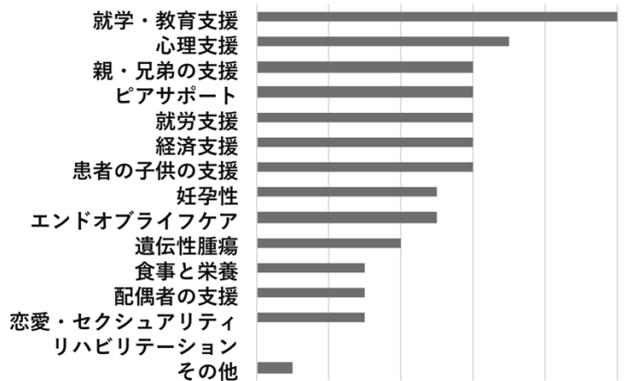
【研究1】2018年度、がん・生殖医療に関する県内13施設での統一した内容の啓発研修会後のアンケートで、県内統一の資材を用いたがん患者の治療やサポートに関連した情報を伝えるシステムについては、92.7%（427名中396名）が「大変有用である」「有用である」と回答しており、2019年度はAYA世代がん患者支援についての県内共通資材の作成に着手した。2020年1月の小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する啓発および多職種合同の研修会で試作資材を公開し、本年度はパブリックコメントを募ったのちに初版として2021年3月のAYA weekにあわ

せ一般公開した（図1）。現在、患者サロンやがん相談で試行運用されている。

図1. 滋賀県内でのAYA世代がん支援についての共通資材案（A4両面、三つ折り）



図2. 今後開催してほしい研修の内容



遺伝診療の医師、がんに携わる看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、メディカルソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、緩和ケアチーム（重複含む）等の医療スタッフにより、カンサーボード形式でAYA世代がん症例の検討会を行っていたが、2020年度はCOVID-19パンデミックの影響により多人数集合形式でのカンファレンスが制限されたことから、問題提起された症例への分野ごとの個別対応となった。緩和ケアチームの病棟ラウンドやがんリンクナースなどからAYA世代がん患者の拾い上げを試みているが、AYA支援チームとしての定常運営への移行には至らなかった。

D. 考察

2019年度の研修会後のアンケートから、今後開催してほしい研修の内容には、就学・教育支援、心理支援などに高い要望があった（図2）。これに基づき、2020年度には、滋賀県共催での医療—教育分野合同の研修会を企画する予定であったが、COVID-19パンデミックの影響により実現しなかった。

【研究2】2019年度は院内の多診療分野、職種として、小児科（がん、内分泌・代謝）、成人がん診療科、生殖医療（産婦人科、泌尿器科）、臨床

【研究1】2018年度の研修会のアンケート結果から、がん・生殖医療のほか、AYA世代がん支援についての県内統一の共通資材、研修に対する要望は高く、2019年度には小児・AYA世代のがん診療とサバイバーシップに関する多職種合同の研修会と共通資材の作成・パブリックコメントへ至った。本来はここから共通資材による啓発・普及を深めていくべきであると考えられる。医療以外で重要な問題として挙げられる就労・教育支援の問題など、行政を交えながら双方の議論が交わされ縦割り支援の枠を越えて運用を見直す場合は必

要であり、ツールの一つとしての共通資材の運用とともに今後期待すべき事項である。また、今回共通資材はリーフレットとして作成したが教育などの医療以外の現場でも用いられることが期待されており、SNS等を活用するなど医療からのハードの発信に限らない情報提供をはじめとしたAYA世代がん患者・サバイバーへ浸透するための場の充実も同時に求められなければならない。AYA世代がんサバイバーが治療後の先の人生で抱える医療および医療以外の課題について意識を促し、情報提供を的確に行うことはローカルネットワークの果たす役割の一つと考えられる。

【研究2】2018年度、2019年度において多診療分野・多職種によるAYA世代がん症例の検討会（通称 AYA キャンサーボード、図3）は、各専門分野からの多様な支援をもたらしたといえる。がん診療拠点病院の義務項目とされていないAYA世代がん支援のためのチーム医療を、がん診療拠点の義務項目であるキャンサーボード形式として行い経験を積んだことは、その啓発とチームが構築される過程の一つの形としてモデルとなりうる。本年度は定例化やチームとしての活動の運営には、規模や人数への制限から移行へは至らず、各々の分野別での支援となった。しかし今後がん診療拠点病院・小児がん連携病院として地域でのAYA世代がん診療支援を担うならば、

リモートカンファレンスの形式を普及し常態化する必要性が生じると考えられる。

また地域医療支援としては、すでに滋賀県では2019年度から小児がん専門相談日を定期的に設けている。これを「小児・AYAがん専門相談」に拡充し支援に介入するなど既存のシステムを応用することも提案事項であったが、今年度内の実現には至らなかった。

一方でがんに特化しない総合病院において、これらの院内および地域支援への取り組みは日常診療から各個人への裁量に任された業務にすぎないという見方も否めない。今後AYA世代がん支援をチーム医療で行いその質を上げ、地域医療に貢献することががん診療を担う医療機関の責務であるという認識を全体で持つには、行政の指針等の布石が制度（システム）としてのより円滑な導入をもたらす可能性につながると考える。

E. 結論

AYA世代がん診療の広域支援体制に関しては、がん・生殖医療にならびAYA世代がん患者支援についても県内統一の資材を作成した。今後、医療と医療以外の分野との協働による的確な情報提供がローカルネットワークの役割をつとめ、システムの構築へ進むことが求められる。

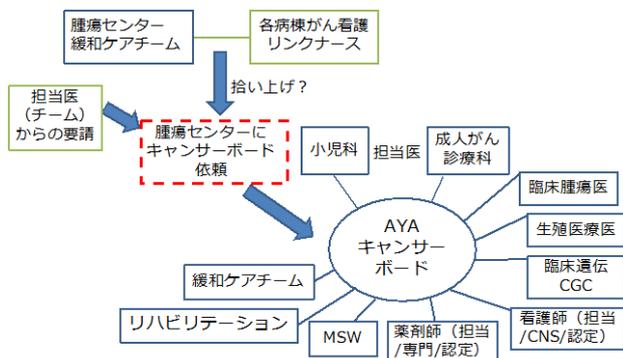
滋賀医大病院内でのAYA支援チームのモデル作成において、定常チーム化を目指すにあたり抽出された課題への対応は、自院内のチーム医療に止まらず、地域医療としてのAYA世代がん診療支援へつながることが期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 太田裕之、清水智治、三宅 亨、植木智之、小島正継、河合由紀、他. リンチ症候群のスクリーニング目的として MSI 検査を施行した大腸癌症例の検討. 遺伝性腫瘍 20(3)151, 2020.

図3. AYA キャンサーボードの形式例



- 2) 勝元さえこ、河合由紀、三宅 亨、他. 本邦におけるBRCA1/2遺伝子コンパニオン診断導入に伴う遺伝カウンセリングの役割. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 41(3)153, 2020.

研究協力者 (五十音順)

滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍センター
長谷川千晶、日置三紀
滋賀医科大学医学部附属病院 看護部
小倉知子、木村由梨、田崎亜希子

2. 学会発表

- 1) 北村美奈、富田 香、河合由紀、他. 当院におけるBRCA遺伝子検査と遺伝カウンセリングの現状について. 第28回日本乳癌学会総会 2020年10月 web開催.
- 2) 坂井幸子、嶋村 藍、河合由紀、他. 小児固形腫瘍におけるQOLを重視した局所治療の工夫
当院における小児がん患者に対する卵巣組織凍結保存の取り組み. 第82回日本臨床外科学会総会 2020年10月 web開催.
- 3) 河合由紀. 当院におけるHBOC診療の変遷と現況. HBOC Breast Cancer Symposium. 2020年10月 web開催.
- 4) 河合由紀、前田留里、小橋美月、飯嶋由香里.
特別企画 AYA世代の乳癌～治療中のその症状、認知機能障害ではないですか?～. 第18回日本乳癌学会近畿地方会 2020年11月 web開催.
(オーガナイザー兼座長)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし